

特集

熊野転生

黄泉の国、浄土とも言われた「隈の地・熊野」。
森は母なる大地の子宮のように、

道は現世と結ぶ産道のように、生命力に溢れている。

草木は森に還り、新たな魂へと受け継がれ、

人は森羅万象の一粒として、寄り添いあつて生きる。

熊野では豊かな自然とあらゆる精が、
混沌として存在し転生を繰り返す。

10th Anniversary
紀伊山地の霊場と参詣道

混沌に魅入られた領域。

杉木立から眩しく差し込む陽。苔むした巨岩。森の懐に続くかのような石畳。時に粹られたかの錯覚を、可憐な路傍の花がみつめている。紀伊半島に抱かれた古道は、未だ亡者が歩く道があり、修験の道があり。

どれほどに鬱蒼と険しいのかと構えていると、意外なほどおもしろく豪快で拍子抜けするほどに明るい表情をみせ、陰と陽がクロスオーバーする。

限の地・熊野は、神話の時代から神々が鎮まる特別な場所であり、神と仏がいまなお強く繋がる日本人の精神性が具現化されたテリトリー。太古の昔から人々の篤い信仰を集めてきた。そこでは、空間や時間、秩序を超えて混沌とモノが存在し、その大いなるモノとともにヒトは生きている。

自然と人の営みが長い時間をかけて形成した奇跡ともいえる風景は、今も人々を魅了し続けている。

①石畳の古道 ②熊野本宮大社の旧社地、大倉庫 ③熊野川に広がる豊海 ④小さなお地藏さん ⑤熊野本宮大社参道 ⑥神の久保院御坊跡 ⑦段築と呼ばれる海沿いの古道 ⑧文字が刻まれた円座石 ⑨叢智の大滝 ⑩神宮神社のお燈祭り ⑪古道沿いに咲くササユリ ⑫野中の方杉 ⑬死心門王子に続く古道

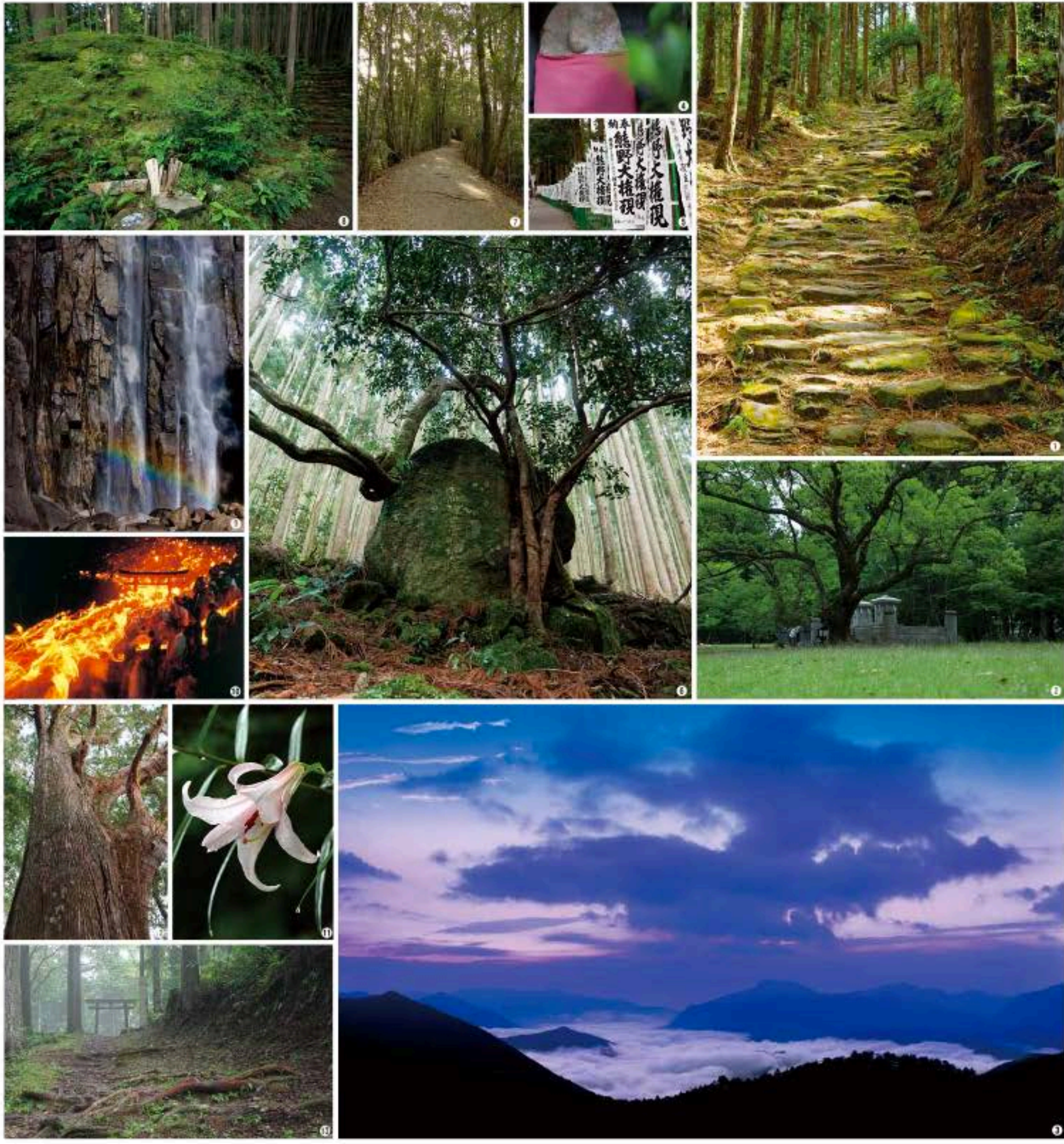
10th anniversary interview
坂本 勲生
Sakamoto Tsunehiko
熊野本宮境内部の会長



人類の宝を未来に語り継ぐ喜び

世界遺産登録から10年、伝承がある。こういう話を「熊野という宝をいつまでも残していかなとあかん。そういう意識が地元の人たちに浸透したことが、最大の変化ではないでしょうか」と語る坂本さんは、熊野の語り部の産みの親ともいえる存在。

「熊野古道自体が歴史であり物語である。道端の一本の木、お地蔵様の一つに」とつとつと語ってくれた。





熊野で生まれた熊野本宮ガラス

2009年、大倉原を望むカフェの隣に工房をオープン。2011年の紀伊半島大水害で釜が水没し全損。自ら自宅の2階から救出されたという。そして1年がかりで釜を修復し、現在は新しいシリーズの新作に意欲的に取り組んでいる。

ガラス屋・茶房 靖

住所 / 田辺市本宮町本宮294 電話 / 0735-42-0147



3本の青い、色が印象的な三波線シリーズは、八咫鳥や熊野三山を表現し、ゆるやかにもじることで熊野川をイメージしている再生ガラス。



復活した熊野川川舟下り

世界遺産登録を機に、2005年に復活した熊野川の川舟下り。紀伊半島大水害では、船着き場が崩れ/取られる大きな被害を受けた。翌年4月には再復活し、最近では海外のお客さまにも大人気。

熊野川川舟センター

住所 / 新宮市熊野川町日足350 電話 / 0735-44-0987



熊野古道弁当

世界遺産登録を機に、「何か名物を」と若女将の大村良子さんが知恵を絞った熊野古道弁当。川湯温泉一帯も先の水害で大きな被害を受けた。「観光客も戻り本道にうれしいですね。せっかく古道を歩くのですから、その風情を味わってもらいたくて古道弁当も復活しました。今も復興工事関連の方もたくさんいらっしゃいます」と笑顔で語った。

温泉民宿「大村屋」

住所 / 田辺市本宮町川湯温泉 電話 / 0735-42-1066

黄泉還りの地。熊野の豊かな自然は、彼方より訪れた人々の心とからだを癒し、魂を再生する。色濃い風景、温泉、水。気自わす分け隔てのない人の心。祈りの空気。

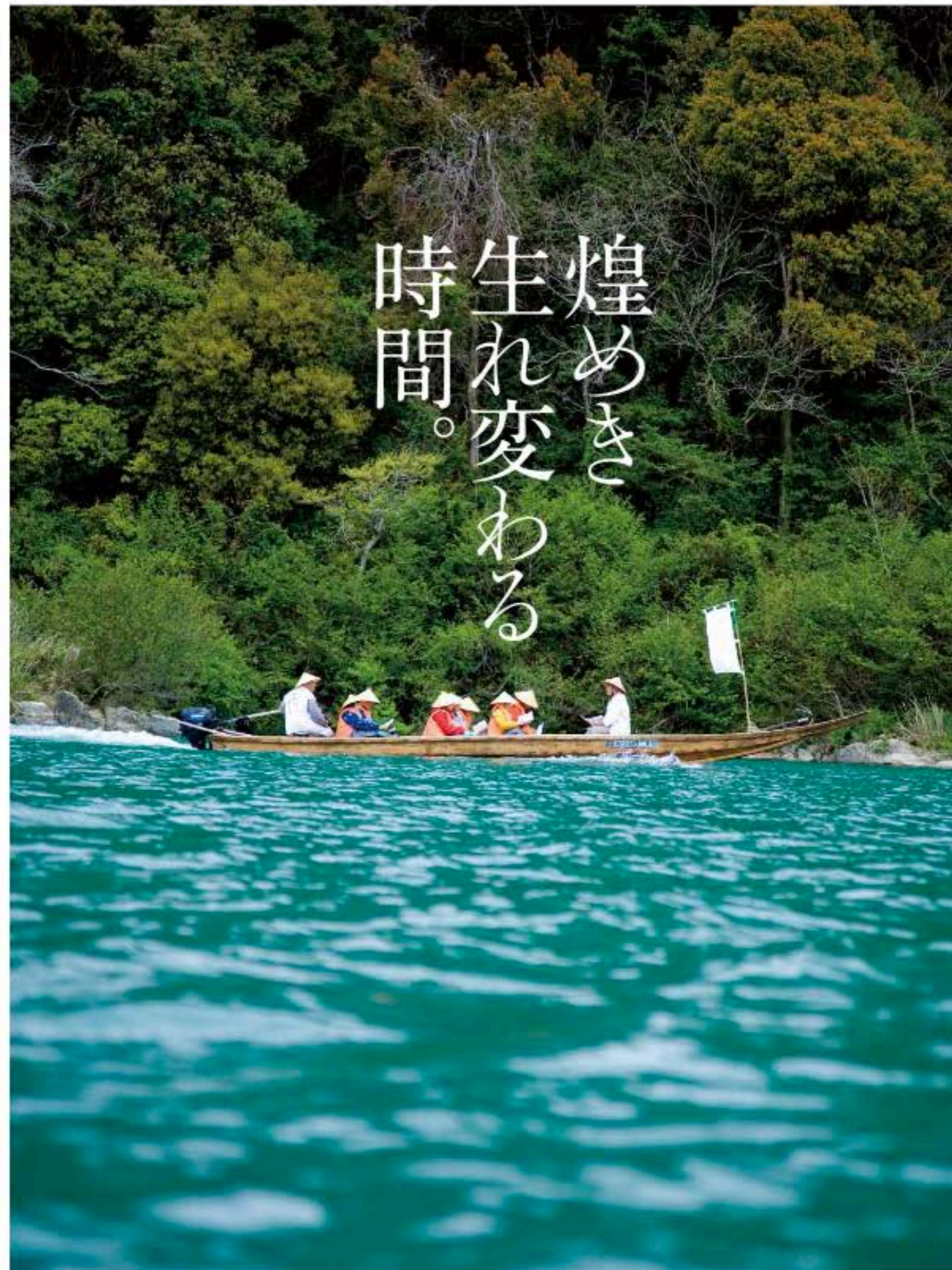
母性の象徴ともいわれる熊野川。翡翠色に輝く川面がゆらぎのリズムを奏で、舟下りする巡礼者にしほしの安らぎを与えた。かつては熊野本宮大社から熊野速玉大社へと詣でるための参詣道であり、それ故「川の参詣道」として世界遺産登録されている。気性が激しい一面をもち、太古より留まることのない流れは、時に歴史を洗い流した。世界遺産登録をきっかけに、復活さ

せたり、誕生したものもある。旅人に人気の熊野川川舟下りは、船頭さんと語り部の息のあった案内が今や名物となっている。美味なる海山の幸は古道歩きに重宝するお弁当に。自然や伝承のモチーフは工芸品のデザインに生かされ、熊野の宇宙を廻り廻る。

夕方に思える熊野の再生について、宿の女将さんが実にニュートラルに語ってくれた。「美しさも厳しさもみんな熊野。優しい時も機嫌が悪い時もあるけど、今までもしてきたように、時間がかかっても元の姿に戻るよ。」

千年続く祈りの地は、こうして逞しさを増していくのだろう。

煌めき
生れ変わる
時間。



和歌山 人・もの・地域

和

n a g o m i

世界遺産登録10周年 号外



サンティアゴ・デ・コンポステーラ 巡礼の道が繋ぐ交流

5月11日から17日、日本・スペイン交流400周年及び世界遺産登録10周年を記念して、「和歌山県文化交流団」がスペインを訪問。13日にはガリシア州のサンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂で和歌山県の伝統文化・精神文化を紹介する「和歌山文化プロモーション」が開催された。大聖堂内では熊野本宮大社の男舞などが披露され、300人を越える市民やマスメディアから大きな拍手が起こった。



サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂に奉納された熊野本宮大社の神官による男舞



心を繋ぐ参詣道 人々が歩き、そして道が生まれた

熊野三山と高野山、吉野・大峯の3つの山岳霊場とそれらを結ぶ参詣道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録され10年が経った。紀伊山地の自然と人々が千年を超えて築いた広大な祈りの風景。しかし、この間も、自然は容赦なく猛威を奮い、また新たな営みに光を注いだ。次の千年を思い、改めてその価値と行方を探る。

世界遺産たる価値

この10年、特に女性を中心に、癒し、パワスポ、スピリチュアルと数多くの本が出版され、

神仏への関心も高まっている。世相を反映し、熊野や高野山の知名度は国内外で徐々に浸透しつつある。神仏習合の姿を色濃く遺す紀伊山地が、なぜ

世界遺産となったのか。その価値を探るべく、登録年度に発行された「世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道」(発行：世界遺産登録推進三県協議会)を紐解いてみた。世界遺産委員会に提出した「世界遺産一覽表記載推薦書」の本文や写真を再構成したもので、そこに登録資産の価値証明に関する記載があり、その一部に比類なき資産との段をみつけた。

(比較による価値証明)
紀伊山地においては、中国大

陸から請来された山岳密教の霊場をはじめ、日本古来の自然崇拜に燃やす山岳信仰又は神道と中国大陸及び朝鮮半島から伝来した仏教及び道教との融合によって形成された日本固有の神仏習合の霊場や修験道の霊場などが同一の山岳地域に併



熊野本宮大社

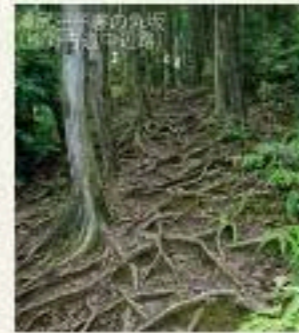
存している。また、これらの三つの霊場が参詣道によって結ばれることにより、霊場と参詣道を含む深遠なる山岳景観が信仰に関連する顕著な文化的景観を形成している。こうした事例は他に類例が無く、価値の比較に関する検討は不可能である。

参詣道

紀伊山地の「参詣道」は目的地への直線的な利用ではなく、相互に利用しあっていることがとても大切な意味をもつ。また、巡礼道が世界遺産の主たる

資産である例は少なく、登録以降、その象徴的な存在として熊野古道(熊野参詣道)が注目された。

熊野古道には複数のルートがある。なかでも、上皇らによる熊野御幸の道・中辺路は、世の面影を強く遺すルートとして人気が高い。京から川を



下り紀伊路を経て熊野三山に至る道中には、熊野九十九(くじゅうく)王子と呼ばれる熊野権現の御子神を祀った社が特徴的で、数キロごとに建てられた王子は、時に歌会を催すなど旅の休息の場所でもあった。ダルにご注意

知の巨人、かの南方熊雄も遭遇したという恐ろしい「ダル」。

取り憑かれると急にからだは動かなくなり、意識が朦朧として歩けなくなるといふ。食べ物を口に放り込むと離れていくので行き倒れの輩とも。今でも地元の人たちは「熊野古道を歩いたらあめ玉持っていけ」とか「おにぎりひとつ口残しておけ」といふ。脱水症状だろ、とか講釈をいわず先人の智恵に従おう。

空海も歩いた巡礼の道

高野町石道は、高野山麓の慈尊院から高野山上へ通じる表参道で、空海が高野山を開山して以来の信仰の道。道標として木造の卒塔婆が建てられていたが、後に1町(約109m)に

な海岸沿いを行く大辺路がある。また吉野と熊野を結ぶ大峯参詣道は、今も修験者たちの法螺貝が響く修行の道。

道は歩けば傷む。そのため和歌山県では企業や個人のボランティアによる道の維持保全活動の仕組みを作り、サポートを続けている。地元の人



みならずたくさんの人々の汗により、未来へ繋ぐこの活動は徐々に浸透しつつあり、平成19年度には536名だった参加者が同25年度には約4倍の2138名に登る。(お申し込み、お問い合わせは県世界遺産センターまで。※)

次代に繋ぐために

熊野や高野山は、人々の暮らしと世界遺産が一体化し呼吸している景観である。言い換えれば、進化も退化もする景観であり、時代の流れに変わらぬ変を繰り返してきた。和歌山県は、課題といえる景観保護のためには文化財の保護だけでは足りないと考え、背景の山並みまで含めた景観条例の制定や自然公園区域の抜本的な見直しなど、あらゆる手段を講じ保全に努めている。この神聖で寛容な空気感を次代に繋ぐために。



今も厳しい修験の道も

熊野古道は、紀伊路、中辺路のほか、伊勢と結ぶ伊勢路、高野山と結ぶ小辺路、風光明媚

今も厳しい修験の道も

熊野古道は、紀伊路、中辺路のほか、伊勢と結ぶ伊勢路、高野山と結ぶ小辺路、風光明媚

高野山の至宝に出会える美術展

高野山開創1200年記念 高野山の名宝

密教美術の至宝、空海ゆかりの至宝や、仏教界に新風を吹き込んだ蓮如と、仏像としての理想美を追求した快慶の作品を展示。なかもも運慶作の国宝「八大童子像」が八幡寺の公開は、開創1200年を記念して。

【東京】サントリー美術館
東京都港区赤坂9-7-4
東京ミッドタウン・ギャラリー3F
2014年10月11日(土)～12月7日(日)

【大阪】あべのハルカス美術館
大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43
あべのハルカス16F
2015年1月23日(金)～3月8日(日)



高野山根本大塔

※和歌山県世界遺産センター/田辺市本宮町本宮100番地01 TEL 0735-42-1044 E-mail:0624002@pref.wakayama.lg.jp
http://www.sekaiisan.wakayama.jp/protect/michibushin.html



サンティアゴ巡礼の道/「鉄の十字架」のある「イラゴ峠」からサンティアゴの方に下る道



熊野古道/大日越え掛次地蔵付近の坂

痛む足を引きずって、汗をまき、
天を仰ぎ、ただひたすら歩き続けるとき、
人は神なるものと近くなる。
日常から解き放たれ、
大地のうえを這うがごとくにすすむとき、
自然や宇宙との根源的なつながりを
確かめることができるのだ。



サンティアゴ巡礼の道/イラゴ峠の鉄の十字架



熊野古道/都智の大滝

熊野古道と
サンティアゴ巡礼の道